



1084
2

世渡名所圖會

二

目錄

齧 <small>く</small>	吞 <small>の</small>	鞞 <small>く</small>	跡 <small>の</small>	戀 <small>の</small>
齧 <small>ち</small>	込 <small>の</small>	廻 <small>ま</small>	跡 <small>の</small>	の
齧 <small>ぐ</small>	山 <small>やま</small>	祭 <small>まつり</small>	祭 <small>まつり</small>	淵 <small>ふち</small>
忠 <small>ちゆう</small>	親 <small>おや</small>	藪 <small>やぶ</small>	膝 <small>ひざ</small>	惜 <small>おぼ</small>
の	不知 <small>しら</small>	唐 <small>から</small>	友 <small>とも</small>	井 <small>い</small>
道 <small>みち</small>	子 <small>こ</small>	坊 <small>ぼう</small>	談 <small>だん</small>	
	不知 <small>しら</small>		合 <small>あ</small>	
			谷 <small>や</small>	
		風 <small>かぜ</small>	雨 <small>あめ</small>	欲 <small>ほ</small>
		の	乃 <small>の</small>	井 <small>い</small>
		宮 <small>みや</small>	宮 <small>みや</small>	

世渡名所圖會



世説新編



三
の
劇

世説新編



倍井



知ん福のワラもあはらまをた。我より智しき
くも又其かは裁しきも。先のくは為まら
やうにらふが。智身福乃るの分るる一

凡ち中は燈もくんとわ方の庫の
まゝか下ぬゆをくあうり
芙蓉花

○ 欲 井

けけみらふ井人固才一の要急とまらぶ。
重銀いともよう。つ切のこの。えうよけけはのん
つきてほいしと申る。我くをたれら

たれども。堪たた實ははんまらまら。
いんくまら。身はあまらまら。あはらまら。
浮世もかたれは。人ら路の。まらまら。
あまらまら。ゆいしと申る。あはらまら。
ららら。あはらまら。あはらまら。あはらまら。
ららら。あはらまら。あはらまら。あはらまら。

骸骨

まのあはらまら。あはらまら。あはらまら。
まらまら。あはらまら。あはらまら。あはらまら。

まつたみれ庵乃るや秋の風 麦林
 玉露林玉露くろく唐山の書一瓦盆盛酒
 與傾金注玉同一醉也蹇駝布韉与金
 鞍駿馬同一遊也松牀莞篔与繡衾玉
 枕同一寢也布袍蒲絮與貂裘狐貉同
 一暖也蔬食菜羹与烹龍炮鳳同一飽
 也知此則貧賤富貴可一視矣と見たり
 ぐく。松板の床のくろく。こもつ敷きと寝るも。
 のも錦のふもよふまはて寝るも。ソもふく

一のちねのせれぐも。露食のくび級よ茶干
 茶のけぐくも。朝の味清よる後印で
 食も。後のもろくもねるも。ちねの
 のねるも。

○蹟の祭

跡のまろくへ誰がのくも。あまのふそ。其一
 二ゆいも。ふのけのけよるも。又信
 考のねを。考く後まろくも。又信
 まろくで代は構よるも。又信

まぐねよの。氣のほきたるも。けく涙の糸は
六日の首痛。十日の氣。あゝの糸はぐんぐん。中
のよつこつ。

何事し涙の糸とらんまき
よめて名に粟の強飯

貞朴

○ 睦々合谷

世の中は人何をもしられ。はくのちつとん。
つねに氣よぬまらるるはひあらしくは父母
見たりともよう。他人もつとも結くちつて。

ほ切に相違しての地ありて一人其人の名
とまらぬ。可く一人の人は其子のなはれ
けなまきして親代まき。らんんして。徳利
は際らるるのありしとまら。今にけふは徳も
強合まといはれしとまら。まきつ人の不
あくすはあまらしきまらるる教訓なり。

○ 鞠廻

よはなまらるるの人は。おしはれいあはれ



社殿の丁度



蹟の祭

雨あつきの
5月の

傾城夏
の経田家

十日のきく

みづのこ

三平の
まゝ

おまの
のこ

浦次郎

七十の
まゝ

世酒の所

一ゲいよかぬんとの思ふまじ。あやうな場をこ
わつとせん其申す可程池屋とすふもの更
強やと強もぬれ口ばと。即ちあやうな場
あやうなものやう。其あやうな刀のふん
がわしはらばりぞきふ刀のふんはらばり道
もあらぬ靴のふんはらばり。あやうなけがさ
れぬれづいさし。そごまらぬとてあやうな
靴まらりと同りの端まらぬし。

おきまらぬばらばり果のまらぬ

半のあやうなけがさ

○ 藪 唐坊

人の海一ゆたきまらぬ。其日の晴雨あやう
互の世のまらぬ。合之後。思ひまらぬ。ふの
あやうなけがさ。あやうなけがさ。あやうな
けがさ。あやうなけがさ。あやうなけがさ。
先の人まらぬ。あやうなけがさ。あやうな
けがさ。あやうなけがさ。あやうなけがさ。
あやうなけがさ。あやうなけがさ。あやうな
けがさ。あやうなけがさ。あやうなけがさ。



世説新語卷之三



世説新語

世説新語卷之三

おしげふせさかづりやあまの
つらみづらよまきしほくも人 周甲

朝まはらぬにふりまを
んぞとらんぬ乃し風 吉原

○ 雨 宮

○ 風 の 宮

此雨まんの身はくふしあはらばく。よその
つらまきしほくもあまの。何れははけ
おしひよりしほくもあまの。何れははけ

雨のま風乃宮くふ。寸善尺慶さあし
よつらういむくしふもめ。

三つたふぬくさう
おしひよりしほくもあまの 胡柳

○ 春 山 寒くさめを所より

はらのんくあまの風吹きて。何れははけ
よつらういむくしふもめ。山つら
おしひよりしほくもあまの。何れははけ
みこし風乃宮くふ。寸善尺慶さあし

さうするのちあつぬ人根が通るべしとて
やま。後さあつぬ人ほく人よしとて後さ
あつぬ人ありとの心なすべしとてけなす
るもさういふ心なすべしとて。

莊子肅物論

汝亦大早計見卵而求時夜
見彈而求鴉炙

こぼる唐の春山もどんの人影
卵を見つゝの可公つゝの心鴉炙

身はかふらと見ると。後鳥がたつと
つづつとたのむ心なり。

○親をば子とて

世の海をよ聞たり。親をば子とて
せらる。世をば子とてせらる。世を
ば子とて運ぶ。世をば子とて運ぶ。
世の海をよ聞たり。親をば子とて
せらる。世をば子とてせらる。世を
ば子とて運ぶ。世をば子とて運ぶ。
世の海をよ聞たり。親をば子とて
せらる。世をば子とてせらる。世を
ば子とて運ぶ。世をば子とて運ぶ。



忠子道



いづはしよ月りの^{あつち}あつちの
ちとち^{ちとち}なる^{あつち}あつちの^{あつち}あつち

文笑

つふ^{あつち}あつちの^{あつち}あつちの^{あつち}あつちの
あつちあつちあつちあつちあつちあつち

房籠

世渡名所圖會卷之二 終

